

放送大学学園スタジオにおける テレビ番組等制作技術業務及び 設備等保守管理業務について

放送大学学園

放送大学学園の概要



設立の趣旨・目的

放送大学学園は、放送大学を設置し、かつテレビ・ラジオの専用の放送局を開設し、放送等を効果的に活用した新しい教育システムの大学教育を推進することにより、レベルの高い学習の機会を広く国民に提供するとともに、大学教育のための放送の普及発達を図ることを目的として法律により設立された学校法人。

放送大学の目的

- 生涯学習機関として、広く社会人等に大学教育の機会を提供
- 高等学校卒業者等に対し、柔軟かつ流動的な大学進学を提供
- 既存大学との連携協力等による我が国の大学教育の改善への貢献

昭和56年 放送大学学園設置
 昭和58年 放送大学 設置

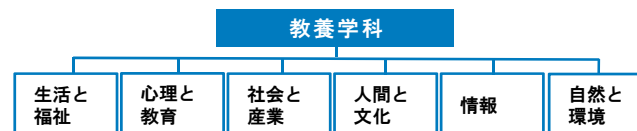
予算

	(百万円)	
	28年度予算額	前年度予算額
予算総額	15,623	13,880
国庫補助金	8,909	7,294
運営費補助金	7,390	7,294
施設整備費補助金	1,519	0
うち補正	1,223	0
授業料等収入	6,271	6,144
事業外収入	193	211
特別修繕準備金受入	240	221
受託収入	9	11

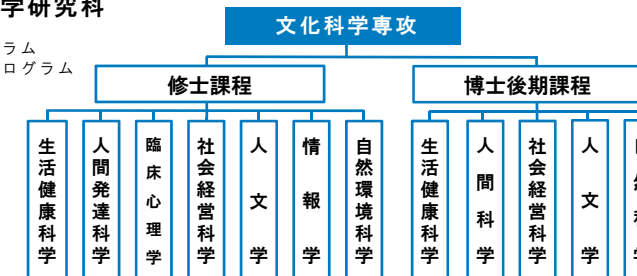
※四捨五入の関係から合計と一致しない場合がある。
 ※平成28年度予算額は補正後の予算額

学部・大学院

教養学部
 1学科6コース



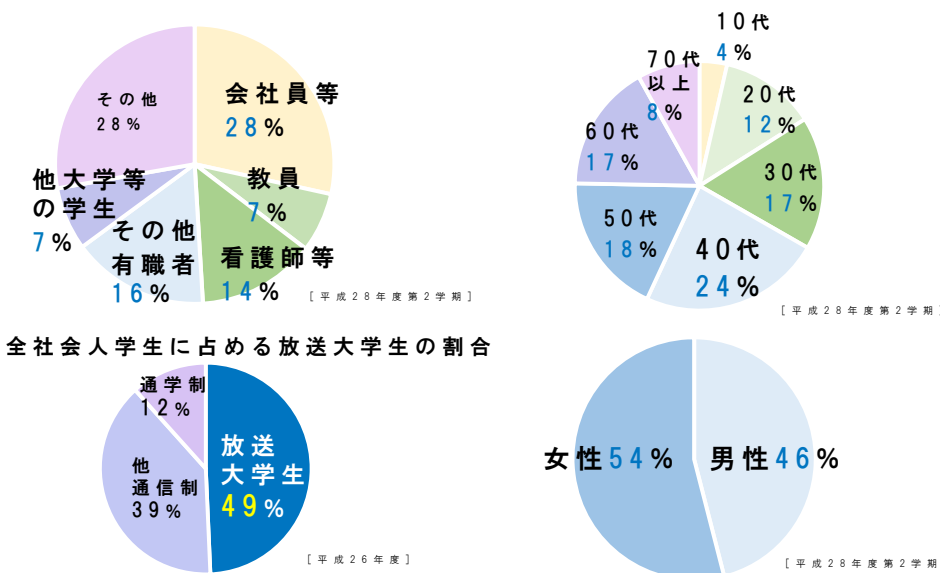
大学院文化科学研究科
 1専攻
 修士課程：7プログラム
 博士後期課程：5プログラム



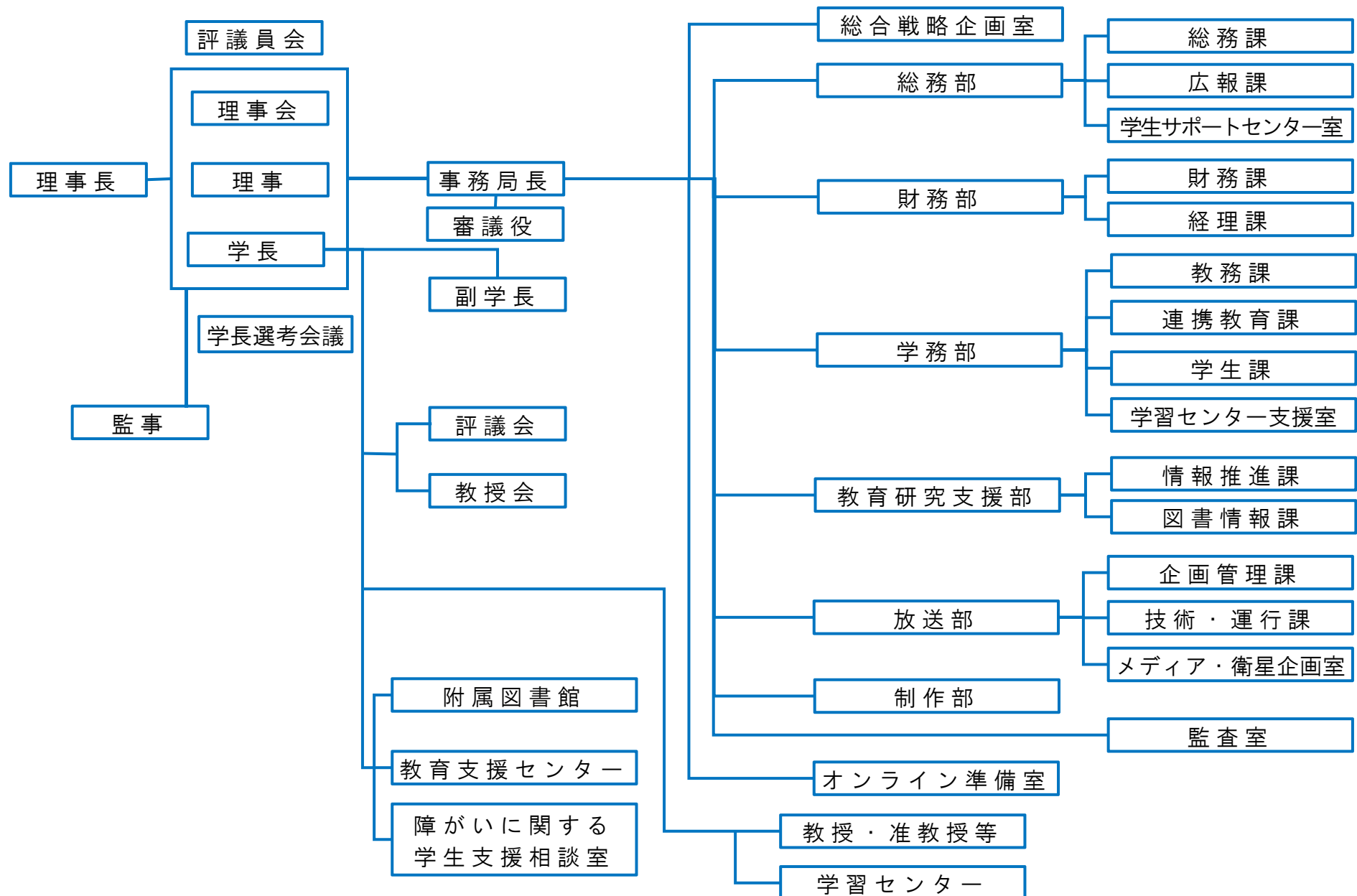
放送大学の学生数

在学者数合計 91,405人
 学部 86,085人
 修士課程 5,283人
 博士課程 37人

学生構成



放送大学学園組織図



放送大学学園の概要



放送大学の教育システム

テレビ科目 177科目

ラジオ科目 171科目

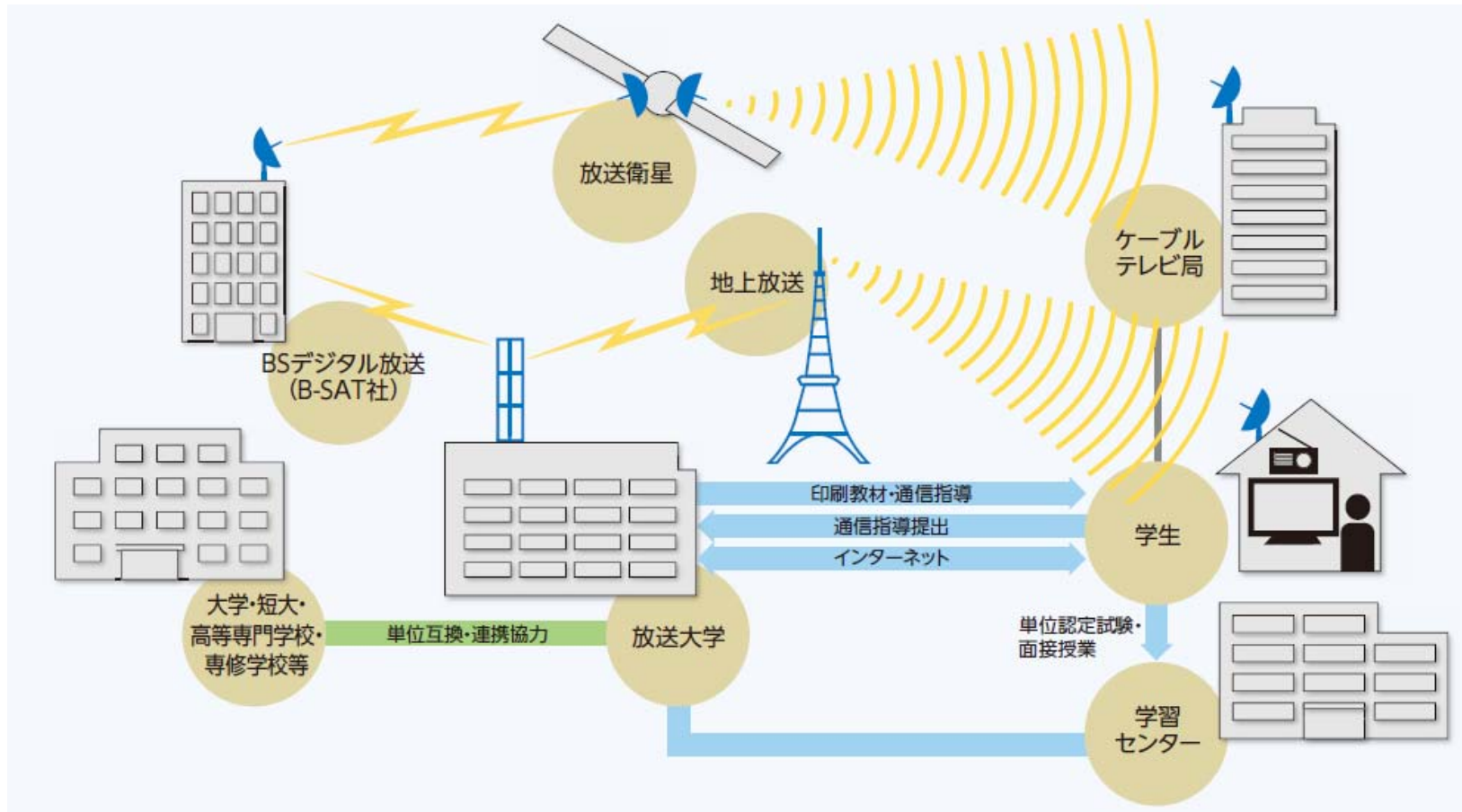
オンライン科目 13科目 [平成28年度第2学期]



放送授業はBSデジタル放送、ケーブルテレビ局による放送、地上波放送などを通して、全国の学生まで届けられる。また、平成27年度よりインターネット上で学習を行うオンライン授業を開講。

学生は、放送の視聴と印刷教材による学習を併せて行い、通信指導による添削を経て、全国各地の学習センターで単位認定試験を受験する。また、学習センターでは面接授業（スクーリング）も行っている。

BS デジタル	テレビ	ラジオ	地上 放送	テレビ (リモコン番号)	FM (東京放送局)	FM (前橋放送局)
	231 Ch.	531 Ch.	12	77.1 MHz	78.8 MHz	
インター ネット ラジオ	Radiko.jp (ラジオ)		(関東のみ)			



本事業の目的及び概要

- 放送大学学園で放送するテレビ・ラジオ全ての授業番組の制作に関する技術業務

技術業務	<ul style="list-style-type: none"> ✓ テレビ番組制作技術業務（収録 及び バーチャル） ✓ テレビ番組制作技術業務（映像編集） ✓ ラジオ番組制作技術業務 ✓ ラジオ番組編集業務 ✓ 簡易MA業務 ✓ ダビングスタジオ業務 ✓ その他の業務（オンライン授業、コピー業務など）
管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保守・管理業務（全体管理 及び 設備点検・保守）

制作スケジュール及び制作規模

- 4月～翌年3月にかけて新規授業番組の全てを収録し、翌年度4月から放送開始
 - 新規授業の科目数：テレビ番組、ラジオ番組ともに30～35科目程度
(1科目あたり15本)
- ⇒ テレビ番組約500本、ラジオ番組約500本、合計約1,000本の番組収録

テレビ番組関連業務

▶ テレビ番組制作技術業務（収録及びバーチャル） （要員:19名）

テレビスタジオ3室で業務

- ✓ 通常収録：授業番組収録、編集、完プロ(※1)作成等
- ✓ 手直し：一部修正、編集、技術試写等
- ✓ バーチャル収録：授業番組収録、編集、完プロ作成等
- ✓ 副調作業：技術試写、テロップ手直し等



▶ テレビ番組制作技術業務（映像編集）（要員:3名）

リニア編集室1室、ノンリニア編集室2室で業務

- ✓ リニア編集(※2)、素材のレベル・色相・位相補正
- ✓ ワイプ・DVE・色付加等の特殊映像加工
- ✓ スタジオインサート用編集、XDCAMへのファイル変換
- ✓ パターン・写真・動画・テロップ等の入れ替え、手直し
- ✓ 編集データの管理 etc.



ラジオ番組関連業務

▶ ラジオ番組制作技術業務（要員:3名）

ラジオスタジオ3室で業務

- ✓ ラジオ授業番組収録、編集、技術視聴、完プロ作成等

▶ ラジオ番組編集業務（要員:1名）

音声編集室で業務

- ✓ 素材及び完プロの手直し編集

▶ 簡易MA業務(※3)（要員:1名）

ラジオスタジオ1室で業務

- ✓ 整音作業：音声レベル調整
- ✓ 効果音の加工・補正
- ✓ 音楽の挿入



※1 完プロ：編集作業等の工程を終えたテープのこと ※2リニア編集：テープやディスクを直接編集すること ※3 MA業務：音の追加や削除、音量バランス調整等の作業のこと

ダビングスタジオ業務

➤ ダビング業務 (要員: 1名)

ダビングスタジオで業務

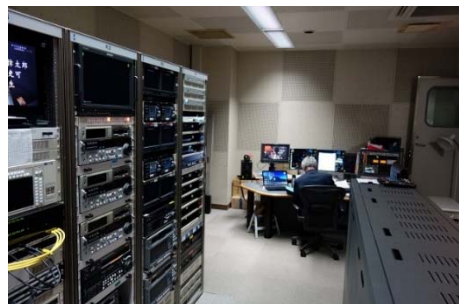
- ✓ 外部から持ち込まれた映像及び音声の各種素材を学園で運用するフォーマットに変換
- ✓ 資料用素材DVD/BDへのコピー及びコピーガードの付加作業



➤ サーバー管理業務 (要員: 1名)

ダビングスタジオで業務

- ✓ 各種編集素材のXDCAMフォーマット変換
- ✓ 共用ファイルサーバーの運用と管理
- ✓ 変換ファイルのサーバー上の管理



その他の業務

➤ オンライン授業業務 (要員: 2名)

プライムスタジオ1室、編集室1室で業務

- ✓ 専用スタジオでのHDD収録作業
- ✓ 編集、テロップ挿入、完プロ作成



➤ コピー業務 (要員: 1名)

PD編集室で業務

- ✓ D3/D5VTRテープのXDCAM/DVDへの変換保存
- ✓ 6mm音声テープのHDDへの変換保存

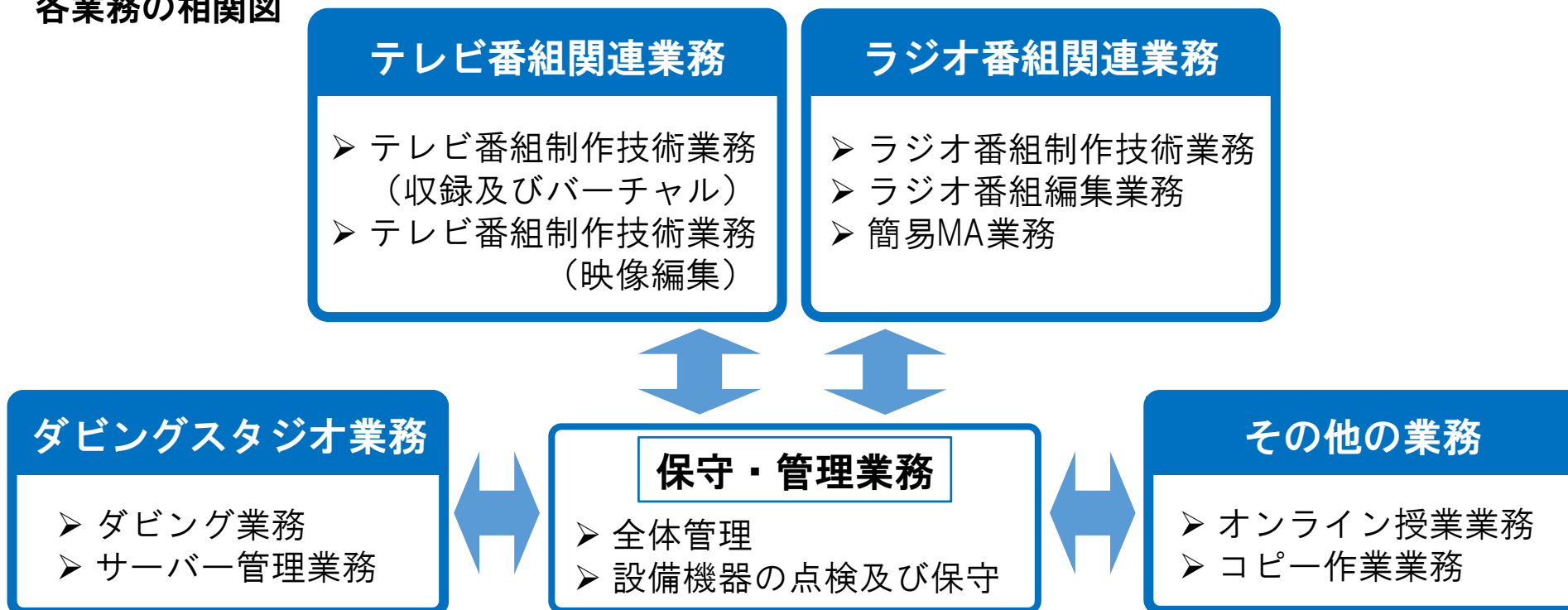


保守・管理業務

保守・管理者による、技術業務全体の管理・調整と、技術業務の進行に留意した全体設備機器の保守・管理

- 業務全体の管理・調整
 - ✓ 技術的適性(個人スキル等)に配慮した要員の配置及び調整
 - 授業番組ごとに年間担当者を決定
 - 突発案件(素材・完プロ手直し等)が生じた際に担当者を配員
 - ✓ スタジオ等作業要員の確保と学園担当者への周知
- 番組制作の関連設備機器の保守管理
 - ✓ スタジオ及び関連設備の日常的な点検及び劣化に対する措置
 - ✓ スタジオ及び関連設備の障害が発生した場合には、専門的な知識で収録業務への支障を最小限に留める
 - 代替機器の選択、入替、仮運用するためのシステム構築等
 - 障害が生じた設備機器について、現象確認と詳細報告
 - ✓ 学園が実施する各設備の定期点検・整備の現場立会と復元の確認

各業務の相関図



業務に係る契約の概要

- 平成20年度契約までは、放送大学学園会計規程第33条第2項及び放送大学学園契約事務取扱規程第29条第1項に基づく随意契約（契約の性質又は目的が競争を許さない場合）により調達。



（第33条第2項）
前項の規定にかかわらず、同項の規定による競争に付することが明らかに不利と認められる場合その他放送大学学園契約事務取扱規程（平成15年放送大学学園規程第22号）に定める場合においては、随意契約によることができる。

（第29条第1項）
会計規程第33条第2項に規定する随意契約によることができる場合は、次に掲げる場合とする。
一 契約の性質又は目的が競争を許さないとき。

- 平成21年度契約より、「随意契約の適正化の一層の推進について(平成19年11月公共調達の適正化に関する関係省庁連絡会議決定)」に基づき、競争性のない随意契約の見直しとして、一般競争入札へ移行。
- 業務の適切な履行を確保する観点から、競争参加要件として以下の要件を付与。
 - 国の競争参加資格(全省庁統一資格)において、関東甲信越地域の「役務の提供等」のA又はB等級
 - 履行できることを証明する書類の提出
 - ・業務提案書
 - ・履行体制及び実績等(要員数、要員の業務別経験年数、制作番組実績等)
 - ・同種契約における過去の契約実績

直近5年間の契約実績

「放送大学学園スタジオにおけるテレビ番組等制作技術業務及び設備等保守管理業務」に係る契約実績					
年度(平成)	24	25	26	27	28
契約期間	平成24年4月1日～ 25年3月31日	25年4月1日～ 26年3月31日	26年4月1日～ 27年3月31日	27年4月1日～ 28年3月31日	28年4月1日～ 29年3月31日
請負事業者	(株)NHKメディア テクノロジー	(株)NHKメディア テクノロジー	(株)NHKメディア テクノロジー	(株)NHKメディア テクノロジー	(株)NHKメディア テクノロジー
支払金額(千円) (28年度は契約単価×予定数量)	136,284	143,401	157,149	154,675	150,697
契約方式	一般競争入札 (最低価格落札方式)	一般競争入札 (最低価格落札方式)	一般競争入札 (最低価格落札方式)	一般競争入札 (最低価格落札方式)	一般競争入札 (最低価格落札方式)
入札説明書受領者数 (請負事業者を含む)	1者	1者	2者	2者	1者
応札事業者数	1者	1者	1者	1者	1者

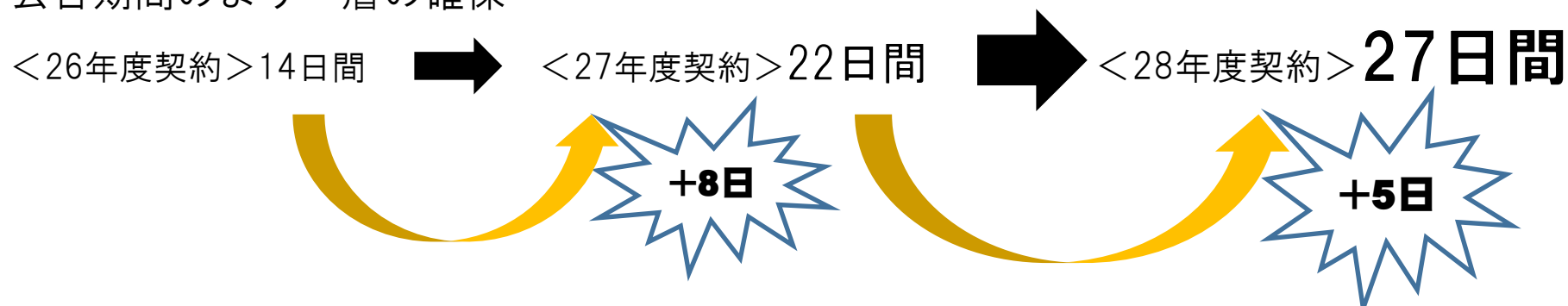
現行の28年度契約を含む直近5年間の契約では、入札説明書の受領業者が2者の年度もあったものの、いずれの年度も応札業者は1者の状況が継続している。

一者応札の改善に向けたこれまでの取り組み

第148回官民競争入札等監理委員会においてモニタリング対象案件として選定された当該業務に係る契約については、一者応札の状況の改善、より一層の競争性の確保を図るため、契約監視委員会における委員の意見、学園内部での検討を踏まえて、以下の取り組み（情報開示の充実化等）を順次自主的に実施。

ア 入札スケジュールの改善

- ・ 公告期間のより一層の確保



※<29年度契約> 30日間 (予定)

イ 情報開示の充実化

<～26年度契約> 未実施 → <27年度契約～> 実施

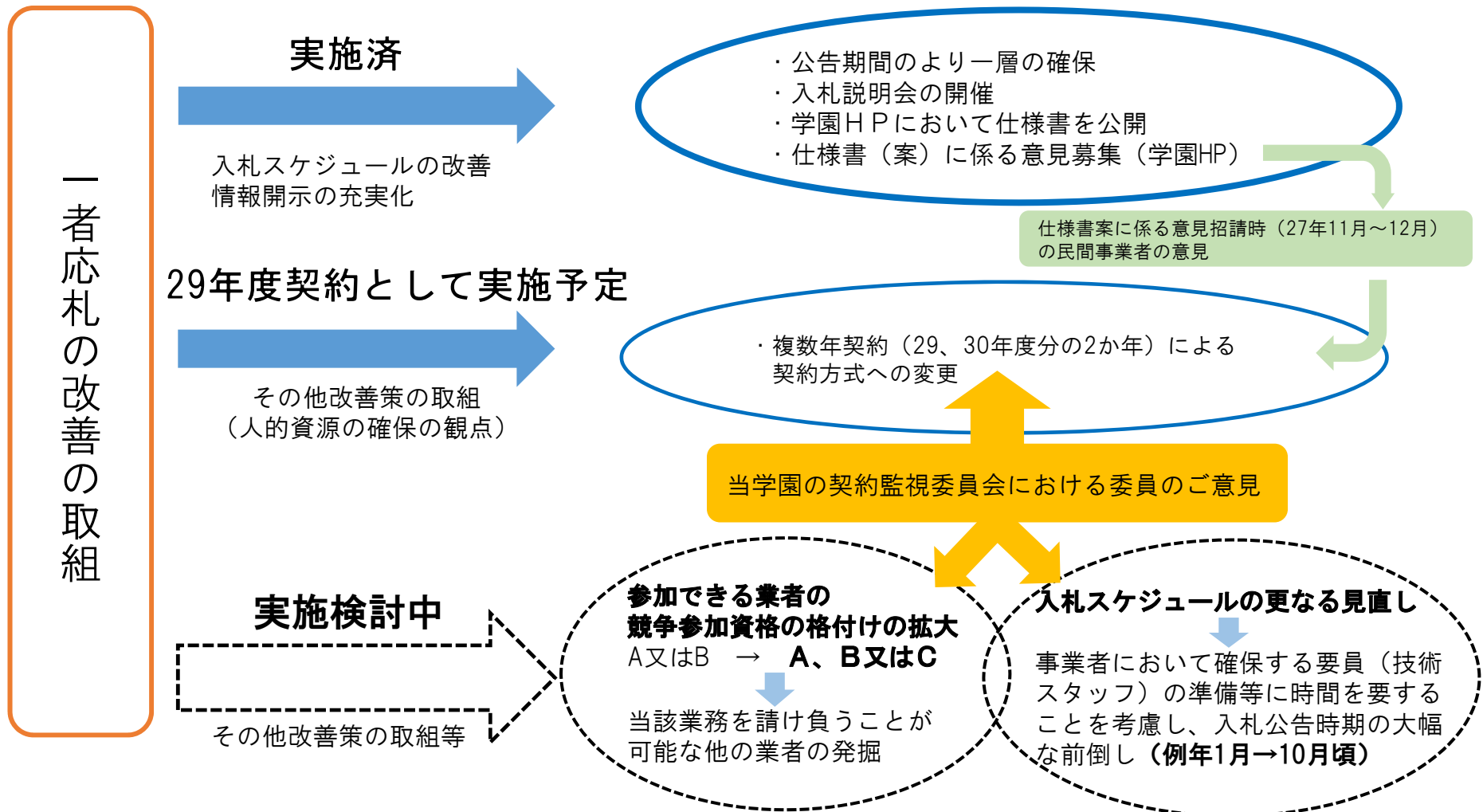
- ・ 入札説明会の開催
- ・ 学園HPにおいて、入札公告と併せて仕様書を公開

<～27年度契約> 未実施 → <28年度契約> 実施

- ・ 学園HPにおいて、入札公告前に仕様書(案)に係る意見を募集（募集期間1ヶ月間）

本業務が市場化テストに馴染まないと考える理由①

一者応札の状況を改善するための取組については、順次対応しているところであり、また今後も引き続き対応予定の事項があることから、その結果を踏まえた上で検討する必要がある。



本業務が市場化テストに馴染まないと考える理由②（業務の一体的実施）

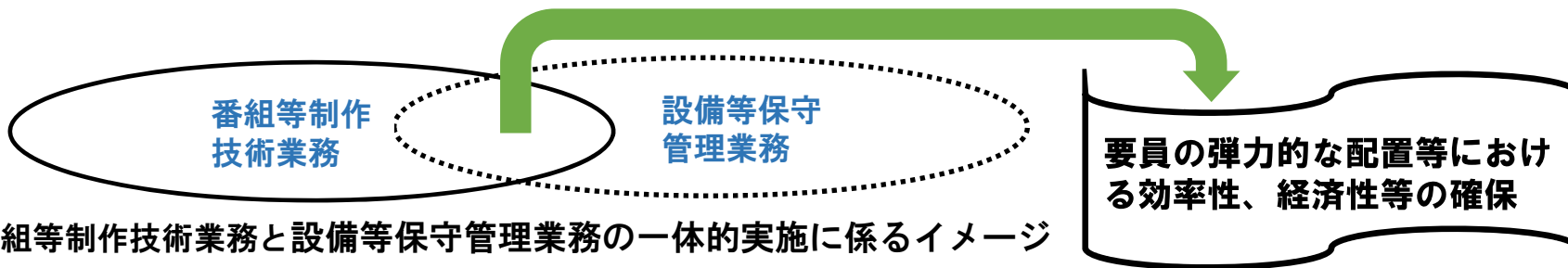
- 当学園が行っている放送番組の制作、配信等については、安定的かつ継続的に行う必要があり、番組制作等において当学園が使用するスタジオ設備、及び各種機材の仕様、性能等を熟知し、万が一の障害時にも迅速に対応可能であることが必要である。
- 番組の制作、配信等を安定的かつ継続的に行うためには、番組制作等に使用するスタジオ設備等の保守点検について、日々適切に行なわれることが必要である。そのためには、番組制作等と同様、当学園のスタジオ設備等の仕様、性能等を熟知し、番組制作等に支障が生じないようにそれらを適正な状態に保つ必要があり、番組制作等業務と一体的に行うことが不可欠である。



事業に含まれている番組等制作技術業務と設備等保守管理業務とを分割して調達（契約）した場合、一者応札は改善される可能性はある。

しかし・・・

★それぞれの業務を分割して実施した場合、一体的に行うことで確保されている業務の効率性や円滑性、経済性が損なわれる可能性があり、業務の質の向上や経費節減につながるとは考えにくい側面が強い。



本業務が市場化テストに馴染まないと考える理由③
(発注側以外に潜在すると考えられる要因)

一者応札が継続している状況を改善するため、仕様書の見直しを検討するための仕様書案を公開して意見を募集したが、見直し要望等に関する意見は寄せられなかった。



一者応札が継続している要因は、求めている業務仕様を適切に履行できるだけの人的資源の確保等が可能かどうかといった民間事業者側にもあると推察。

当学園は、国に準じた「随意契約の適正化の一層の推進について（平成19年11月公共調達 of 適正化に関する関係省庁連絡会議決定）」の考え方を尊重し、可能な限り競争契約に移行することで、公平性、公開性、経済性のより一層の確保を図ってきたところである。そして、それ以降も、競争性の改善を図るため、一者応札の改善のための方策について検討し、順次対応してきている。

したがって、当学園としては、引き続き一者応札の事態に対する改善に取り組み、その経過を見守った上で、今後の結果を分析するなどした上で市場化テストへの移行が可能かどうか改めて検討すべきものとする。